

特色ある学校づくりに向けて

守谷市立松前台小学校

1 はじめに

学校教育目標「自分の力を拓き、心豊かにたくましく生きる児童の育成」の実現に向け、確かな学力の定着や、豊かな心の育成に向けた特色ある学校づくりの取組を行っている。本校の児童は、相手に自分の思いや考えが伝わるように、話したり書いたりする力が十分ではない実態があり、確かな学力の定着には、一人一人の児童の表現力向上が必要であると考えた。市小中一貫教育きらめきプロジェクト「学びプラン」の目標達成に向けた取組と合わせ、今年度は、10月の研究発表会では、**国語科の説明的な文章の指導を中心に**、文章を正しく読んだり、自分の考えを豊かに表現したりする研究を進めた。学習を支える三つの力として、「言葉の力」「基礎的・基本的な力」「読む力」を挙げ、それらの力を育てる取組の一つとして、**NIE（新聞教育）の取組**を行った。豊かな心の育成のため、発達段階に応じた体験活動を重視した**環境教育の充実**にも努めている。

2 実践

（1）国語科の説明的な文章の指導を中心に

① 身に付けさせたい力を明確にした学習指導

正しく読むこと・それを活かして表現することをねらいとして、国語科の説明的な文章の指導において、身に付けさせたい力「読み取る力」「表現する力」の2つの指導に当たった。系統性をもたせた指導を行い、学んだことを積み上げていく指導を行うことができた。国語科の説明的な文章の指導で身に付いたことを他教科の学習で活かしていくこともでき、学ぶ楽しさや達成感を児童は味わうことができた。

② 「コミュニケーションタイム」の導入

説明的な文章における指導過程では、正しく読んだり、自分の思いや考えを豊かに表現したりする場面が出てくる。そのような場面で、自分の考えを広げたり深めたりするために、友達との交流活動が大切になる。児童が自分の思いや考えを自由に表現することができるように、本校では「コミュニケーションタイム」（低学年は「おはなしタイム」）と称して、児童どうしの交流活動を取り入れた。国語科の指導だけでなく、すべての教科・領域で実践した。

③ ていねいなノート指導

自分の思いや考えを積極的に表現できる児童を育成するために授業展開とともに、ていねいなノートの指導を行った。児童一人一人のノートの基本的な取り方を徹底するとともに、授業の終末での「振り返り」を重視した。1時間1時間の授業のねらいをはっきりさせた授業を展開することは、授業の終末に児童が何を学んだのかをはっきりさせることができると考えた。学んだことを自分のものとして身に付け、次の活動に活かすことができる。国語科の指導だけに限らず、すべての教科・領域で統一して実践した。

国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力			
学習目標	身に付けさせたい力	指導のねらい	指導の工夫
国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力	読み取る力	国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力	国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力
国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力	表現する力	国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力	国語科「説明的な文章」について身に付けさせたい力

身に付けさせたい力 系統表



コミュニケーションタイム



振り返りを重視したノート指導

(2) N I E（新聞教育）の取組

本年度9月より、N I Eを積極的に取り入れた学習指導をスタートさせた。新聞記事を読むことは、「言葉の力」として児童の語彙を増やしたり、「基礎的・基本的な力」としてことばや漢字の力を身に付けさせたり、「読む力」として日常的に児童に読解力を向上させることができると考えた。また、自分の考えを記事にして、他者に伝える機会を設けることで、表現する機会が増え、表現する力を向上させることができた。

① 豊かに表現する力を育てるために

児童の表現力向上のために、記事を切り抜き、朝の1分間スピーチや学級の掲示などに活用した。年度後半から、新聞のスクラップに力を入れている。スポーツや自然、動物など関心の高いものを選択し、自分の考えを表現する児童が増えている。



新聞記事を活用した授業実践

② 教室環境の中での新聞活用

児童の目を社会や自分の将来に向けさせることをねらいとして、新聞を児童がすぐ見ることができる場所に置いた。「新聞コーナー」を設け、いつでも新聞を読むことができる環境づくりに努めた。「気になる記事をチョイス!!」コーナーを設置し、学習中のテーマや最近のニュースなどに目が向くようにした。



「新聞を読んで 感じて 考えて」

③ 自分の思いや考えを発信するために活用

自分の思いや考えを発信する取組を進めた。様々な学習場面（教科の学習の一環として、学級活動を通して）で新聞作りを積極的に取り入れた。教科の学習を深めるために活用するとともに、学級活動を通して、自分たちの情報を発信のために活用するようになった。

(3) 環境教育の充実

本校の北側には鬼怒川が流れ、それに接して大山新田の畑や里山が点在した地域である。また、大山公園など自然を生かした公園もあり、豊かな自然環境の中で児童の教育活動を進めることができる。発達段階に応じて、環境問題を考えることができるように、系統的な学習を進めている。

① 学習活動での取組

1・2年生の生活科では、公園探検などに積極的に取り組んでいる。3・4年生は、学校や地域の環境に目を向けるとともに、霞ヶ浦湖上体験の体験を通して、環境について広い視野で考えることができるようにしている。5・6年生では、里山での米作り体験を中心に、食について考えを深め、広く世界の環境問題にも目を向ける取組を行った。

② 美化運動等の取組

本校の美化運動の取組として、清掃活動への取組（マスクの着用・時間いっぱい無言清掃）がある。縦割り班での清掃や委員会の朝のボランティア清掃も実施した。日常活動を通して、主体的に環境にかかわる意識を高めている。市公園の里親事業への参加も積極的に行い、地域に環境美化への意識を高めた。



美化運動の取組

3 成果と課題

学力診断のためのテストの検証では、本校児童の表現力の向上が見られた。年間を通した活動を通して、環境教育の定着も図られてきた。

市小中一貫教育きらめきプロジェクトの学習スキル・生活スキルを本校の年間指導計画等に積極的に取り入れ、今年度の実践をより深めていく手立てをさらに考えていきたいと考えている。また、保護者や地域との連携をさらに広げ、深め、特色ある学校づくりを進めていきたい。